

Honda Sports

クルマで走ることが好きな開発者が、他には無い走りの楽しさの実現にこだわり「新たな喜びをもたらす革新があるか」をモノサシにしてドライビングの上級者だけでなく、多くの人に楽しんでもらうことをめざす。日本のクルマをもっと面白くするために。



NSX (1990)

「過去に例の無い、新しい考えと新しい性能を持ったスポーツカーを創造したい」。

「クルマが人を選ぶ」といった旧来のスーパースポーツの姿と決別し、より扱いやすく、安全・快適でありながら世界第一級の運動性能を持つ「人」を中心とした独自の価値を提供した。

INTEGRA TYPE R (1995)

「レーシングカーの持つ圧倒的なドライビングプレジャーを、一般の人に広く届けられたら面白い」。

そんな発想から誕生し、アンダーステアを感じさせないリニアなハンドリング、天井知らずで伸びるエンジンフィールで、世界のスポーツドライビングファンの心を驚きとともに捕らえた。



S2000 (1999)

「『リアルオープンスポーツ』と呼ぶに相応しい高い運動性能を」。

スポーツカーづくりの常識に挑戦し、オープンカーでありながらクローズドボディ以上の高剛性を実現するとともに、先進の環境性能・安全性能と両立。まさに「ないものをつくる」ことに挑んだ、Hondaらしいオープンスポーツである。



SPORTS360 / S500 / S600 / S800

軽トラックの「T360」とともに誕生した、Hondaで初めての四輪車。「スポーツカーを出すからには世界一でなければ意味が無い」との本田宗一郎の考えから、水冷・直列4気筒DOHCエンジンはじめとする珠玉のメカニズムを採用。



市販化されたS500、S600、S800は、排気量が倍ほどもあるクルマに匹敵する最高速をマークするなど、世界のスポーツカーファン、モータースポーツ愛好家からの高い人気を誇った。

BEAT (1991)

「もっと自由に発想し、乗って走って理屈抜きに楽しめるクルマをつくりたい」。

小さくて親しみやすいという長所を最大限に活かすとともに、NSXと同じミッドシップ・レイアウトを採用してアミューズメント感覚の楽しさを追求した軽スポーツ。



CR-Z (2010)

「これからの時代にも、胸を張ってスポーツドライビングを楽しめるクルマをつくりたい」。

ハイブリッドカー・世界初の6速MT、レーシングカーのオーバーテイクボタンのような「PLUS SPORT」システム等、走りの喜びの追求にこだわった独創のハイブリッドスポーツ。

